News of The Japanese Weekend School of New York

BIG APPLE

ニューヨーク補習授業校
56 Harrison St. Suite204
New Rochelle, NY 10801 U.S.A.
Tel:(914)636-3770
Fax:(914)636-7476
平成２５年　９月２０日　No. 11
発行責任者：校長　櫻井郁男

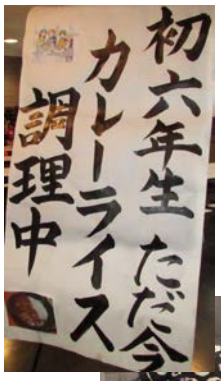
９月２３日

LI 校の教頭が、子どもを引きつける工夫として「小道具」の活用を先生方に説いていました。そこで私は、バスケットボールと水色の画用紙を用意して朝会に臨みました。まず、ボールをつきながら生徒の前に進んでいきます。注目は私に集まります。（導入は成功）そして「今日もクイズをしましょう」と幼児部の子どもたちに語りかけ、中高生に対しても「君たちにも質問するよ」と予告をしました。

「画用紙は海ですよ。そうするとボールは何に見えるでしょう」と水色の画用紙の裏から、ボールが子どもたちから見えるように、ゆっくりとのぞかせていきました。返事は「ボール」おっと、丁寧に質問をしていない（トホホ・・・反省）「そう、ボールなのだけど・・・こうしたら、何に見えますか」と、再度同じ動作を繰り返しつつ「おはようございます」そして、ボールを画用紙の裏に隠しつつ「お休みなさいかな・・・」と問いかけ、数人とのやりとりをして「お日様」との答えをもらいました。

次に小学生に問いかけ「日の出」「日の入り（日没）」に話を進めました。いよいよ小学校高学年から中学生に質問する番です。色画用紙とボールで「昼間と夜」について確認し、「もうすぐ世界中の人々が同じ体験をする日が来ますね」と語りかけました。私は「秋分の日」という答えがほしかったのですが、「英語では言えるのだけど」と、もどかしげに答えようとする小学生がいました。

いよいよ高校生に質問を投げかけます。「昼と夜の長さが同じと説明したけど、それは英国と同じ考えをする国のことであって、日米では、昼の時間が少し長い。それはなぜか」と質問して、ボールと画用紙を使い、日の出と日の入りについて、英米での定義を紹介しました。国内で中学生だけを指導してきた（利島小中学校校長以外）私にとって、LI 校でのお話は新鮮な体験であり、教材研究・指導法の工夫が求められる機会でもあります。





写真は料理から学ぶ日本語

春分・秋分・お彼岸・・・これらの言葉を知らない児童・生徒もたくさんいるようでしたが、十五夜・お月見は多くの子どもたちが知っていました。

本校は国語の指導を幹にして、日本の文化・習慣も伝えております。また、授業時間以外でも日本のことを知る機会のたびに、豊かな語彙を学びます。

「漢字・ひらがな・・・気になる表記」

＊先生が伝えたことを、お家の人に伝えること
＊こういったお話を、みんなの前でいったとき

漢字とひらがなの使い分けを調べてみましょう